

自分の地域を知り、防災意識を高めよう!

黒松内町で地域防災講演会を開催



開催日/平成17年9月4日(日)

会場/黒松内町 環境学習センター(歌才自然の家となり)

講演1 「黒松内低地断層帯について」

独立行政法人産業技術総合研究所活断層研究センター
吾妻 崇氏

講演2 「今後の地域防災のあり方」

北海道大学公共政策大学院教授・副院長
加賀屋 誠一氏



独立行政法人産業技術総合研究所活断層研究センター

吾妻 崇氏



北海道大学公共政策大学院教授・副院長

加賀屋誠一氏

地域の特性を知り、防災意識をより高めてもらおうと、「黒松内低地に存在する活断層とその活動」～今後の地域防災のあり方～をテーマに黒松内町で地域防災講演会が開催されました。

政府の地震調査研究本部が平成17年3月に公表した「全国を概観した地震動予測地図」のなかで、「黒松内低地断層帯」は、「今後30年の間に地震が発生する確率が我が国の主な活断層帯の中では高いグループに属することになる」と報告されました。

このことを受け、黒松内地域の特性に併せた防災意識の向上を目的に、活断層地震と地域防災の各専門家を招いた講演会が後志地方河川・道路防災連絡協議会の主催で行われました。

最初の講演では、独立行政法人産業技術総合研究所活

断層研究センターの吾妻崇氏が、「道内の他の活断層に比べても黒松内低地断層帯の地震発生確率が高い。地域にどのような活断層があるのかを知り、地震時の現象や対応を日頃から考えてほしい」と、調査データを交えながら解説しました。その後、黒松内町役場総務課長の佐藤雅彦氏より、町内での防災計画について説明がありました。

後半の講演では、北海道大学公共政策大学院教授・副院長の加賀屋誠一氏が「住民への的確な災害情報の提供が重要で、そのためには災害リスク情報コミュニケーション(双方向の情報伝達)が必要」と、自助・共助・公助による地域防災の重要性を話しました。

今回の講演会には黒松内町の住民や防災関係者など100名以上が参加し、専門家の説明に熱心に耳を傾けていました。